

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第四話

「外国人が見た新冠」(要約文)

北海道の開拓は、明治時代になって急激に進められました。これにより、新冠にも外国人が来訪するようになります。次からは、新冠を訪れた有名な外国人を紹介するとともに、その外国人が垣間見た新冠の様子について、書籍からの一文を記します。

【ホーレス・ケプロン】

アメリカ人のケプロンは、北海道開拓使の顧問を務め、北海道開拓の父といわれています。明治4年に来日し、明治8年に帰国しています。

『ケプロン日誌』より「新冠には大きな気持ちのよい茶店があつて休息し、人も馬も元氣を取り戻した。中略、涼しい海風は疲れた体に気持ち良く、この思いがけぬすがすがしい休息の思い出は、いつまでも胸に残りに違いない。」

【トーマス・ライト・ブラキストン】

イギリス人のブラキストンは、鳥類研究家・事業家・探険家であり、文久3年、函館に日本最初の蒸気機械製材所を建設しています。

『蝦夷地の中の日本』より「：新冠川は谷の北西側に注いでいるが、海は岩の断崖へ迫っており、谷は相当な広さのもので、そのうえ、川の上流へ向つて遮ぎるものもなく、眺めが非常に美しい。」

【ジョン・バチエラー】

イギリス人のバチエラーは、聖公会海外伝道協会の宣教師で、明治13年に渡道し、アイヌの人々にキリスト教を布教しています。新冠では明治31年に新冠講義所を高江に開設しました。

『我が記憶をたどりて』より「：ポンセツプ(節婦)にあるごく小さな川へ行つてヤマバをつりました。とれると、その場で火を焚いて、フライ鍋に入れて揚げて食べました。その美味いことと申しましたら頬が落ちるようでした。」

【エドウィン・ダン】

アメリカ人のエドウィン・ダンは、ホーレス・ケプロンの末子であるエーシー・ケプロンのすすめによつて北海道に来ました。ダンは御料牧場の設計者として新冠を訪れ、狼の撲滅に苦労されたことはよく知られています。

『日本における半世紀の回想』より「本陣(旧新冠会所)の近くで新冠川が注いでいた。そのお祭りは、川と海との間にある大きな砂丘の上で行われた。中略、男も女も手をつなぎあつて輪をつくり、始終歌を歌いながら飛び廻るのであつた。この頌歌あるいは歌曲はこころよく耳を打った。」*アイヌ民族の踊りの様子



新冠に来た外国人のひとり
『エドウィン・ダン』

飲酒運転の根絶！

- 飲酒運転をしない、させない、許さない
- 乗るなら飲まない！飲んだら乗らない！
- 飲酒運転情報は、「飲酒運転ゼロボックス」へ 静内警察署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
7月	0件(0件)	18件(20件)
30年1~7月	0件(3件)	171件(152件)

交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
7月	0件(2件)	0人(0人)	0人(2人)
30年1~7月	4件(2件)	0人(0人)	5人(2人)

人の うごき

(平成30年7月末現在)

人口	5,593人	(前月比 + 1人)
男	2,739人	(前月比 - 1人)
女	2,854人	(前月比 + 2人)
世帯	2,763世帯	(前月比 - 3世帯)